

報道関係者各位

2025年2月4日

みんぱく創設50周年記念企画展
「点と線の美学——アラビア書道の軌跡」
2025年3月13日(木)～6月17日(火)

国立民族学博物館（大阪府吹田市千里万博公園10-1）では、みんぱく創設50周年記念企画展「点と線の美学——アラビア書道の軌跡」を2025年3月13日（木）から6月17日（火）まで開催します。



展覧会について

アラビア書道はアラビア文字を美しく書く手法を追求する芸術です。10 世紀のバグダードで体系化され、主にイスラーム建築の装飾やクルアーン写本に用いられてきました。アラビア書道に魅了された人々が、中東・イスラーム世界に限らず欧米や日本においても、千年の伝統と向き合い作品制作に真摯に取り組んでいます。コミュニケーションのデジタル化が進む今日において手で文字を書くことの社会的役割を探究するとともに、20～21 世紀におけるアラビア書道の変容と再生の軌跡をたどります。

本展のみどころ

・社会人類学×メディア史

アラビア書道はクルアーンやモスクの装飾として発展した背景から、日本ではアラブ人またはムスリムの文化と結びつける傾向があります。一方、本展は、そうしたアラビア書道の基層にメディア史という補助線を引き、コミュニケーションのデジタル化が進む今日において手で文字を書くことの社会的役割の変容をグローバルな経験として探求します。アラビア書道の伝統と革新のダイナミズムを提示するとともに、美術としてのアラビア書道展示とは一線を画した包括的な企画です。

・本田孝一作品

日本におけるアラビア書道のパイオニアである本田孝一は、古典書体とヴィジュアルアートを組み合わせた独自のスタイルにより、世界の第一線で活躍しています。本田作品は、ロンドン・大英博物館、マレーシア・イスラーム美術館、ニューヨーク・メトロポリタン美術館など世界中の美術館・博物館に所蔵されていますが、民博では本展にあたり、日本の博物館では初めて作品を購入しました。3 畳ほどの大型作品「人類のピラミッド」と「青の方舟」に加えて、本田の書道印可と自作の竹筆も鑑賞できます。

・グラフィックデザインとしてのアラビア書道

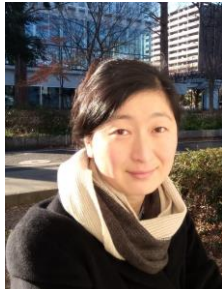
古典的なアラビア書道は文字のアートであることから、書かれたテキストよりも、画としての表現性を重視します。しかし、20 世紀の印刷技術の向上に伴い、新聞の題字、広告や商品ラベルなど「読める」書としてのデザインが書家の仕事となりました。アラブ世界では当代一の書家たちが大手出版社に雇用され、新聞記事のタイトルを毎日デザインしていました。本展示ではみんぱく所蔵の中西コレクションより、1970～80 年代の新聞をセレクトしました。20 世紀最大の書家たちの書をお楽しみください。

展示構成

はじめに	アラビア書道とは
1 Harf ハルフ 文字	アラビア文字の世界
2 Kitaba キターバ 手書き	書家の黄金期
3 Khatt ハット 書	古典作品の現在地
4 Fann ファンヌ 芸術	現代アートとしての展開
おわりに	アラビア文字がつなぐ日本と中東

資料点数

標本資料等：約140点

実行委員長**相島 葉月**（国立民族学博物館 准教授）

オクスフォード大学大学院東洋学研究科博士課程修了。マンチェスター大学人文学部講師（現代イスラーム）を経て、2016 年 7 月より現職。専門は社会人類学、現代イスラーム思想、中東研究。エジプトの空手家コミュニティを事例とした都市中流層の社会階層観やグローバル化の経験に関する研究課題を遂行中。主な著書は *Public Culture and Islam in Modern Egypt: Media, Intellectuals and Society*, (IB Tauris, 2016 年)、「グローバルスポーツとしての武道——カラテからエジプト社会を考える」『中東・イスラーム世界への 30 の扉』西尾哲夫・東長靖編（ミネルヴァ書房、2021 年、pp. 49-59）。

プロジェクトメンバー

相島葉月（国立民族学博物館准教授／プロジェクトリーダー）

エモン・クライル（ベルギー・ゲント大学准教授）

菅瀬晶子（国立民族学博物館准教授）

中道静香（国立民族学博物館外来研究員）

山中由里子（国立民族学博物館教授）

開催概要

展 示 名	みんなく創設 50 周年記念企画展「点と線の美学——アラビア書道の軌跡」 A Thematic Exhibition for the 50th Anniversary of the Museum's Founding Lines and Dots: The Aesthetic Journey of Arabic Calligraphy
会 期	令和 7（2025）年 3 月 13 日（木）～ 令和 7（2025）年 6 月 17 日（火）
会 場	国立民族学博物館（大阪府吹田市千里万博公園 10-1） 本館企画展示場
開館時間	10:00～17:00（入館は 16:30 まで）
休 館 日	水曜日
観 覧 料	一般 580 円（490 円）、大学生 250 円（200 円）、高校生以下無料 ※（ ）は 20 名以上の団体料金／リピーターは団体料金を適用 ※本館展示もご覧いただけます
主 催	国立民族学博物館
協 力	NIHU グローバル地域研究推進事業「グローバル地中海地域研究」民博拠点、 公益財団法人千里文化財団、日本アラビア書道協会、Al Qalam Art House

関連イベント

■みんなくゼミナール

「本田孝一の書と宇宙」

会 場	国立民族学博物館 みんなくインテリジェントホール（講堂）
日 時	4月19日（土）13：30～15：00（13：00 開場）
講 師	本田孝一（アラビア書道家）、 相島葉月（国立民族学博物館准教授）
参加方法	無料（当日参加のみ）
内 容	日本におけるアラビア書道の第一人者である本田孝一先生をお迎えして、このアートの魅力について語り合います。本企画展のために制作した作品や道具の解説とともに、筆遣いも披露して頂きます。



自身の作品を解説する本田氏、マレーシア・イスラーム美術館、2023年。

■みんなくウィークエンド・サロン——研究者と話そう

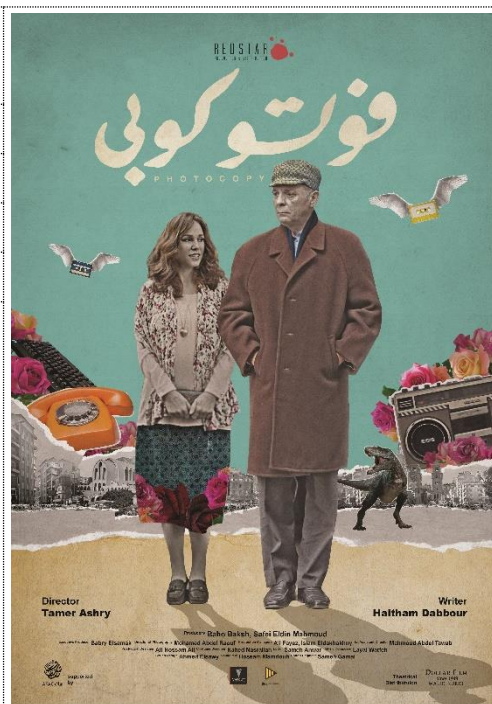
会場・時間	国立民族学博物館 本館展示場（ナビひろば）又は企画展示場 14：30～（終了時間はホームページでご案内します。）
話題・日時・話者	ハサン・マスウディーのフランス——抽象画と日本書道の間で 3月23日（日） 鈴木慈子（兵庫県立美術館学芸員）、相島葉月（国立民族学博物館准教授） 『点と線』か『線と点』か？——アラビア文字の変遷と書道芸術への展開 4月13日（日） 中道静香（国立民族学博物館外来研究員）、山中由里子（国立民族学博物館教授） アラビア書道を刻む——装飾タイルとモザイクタイル 5月4日（日・祝） 黒田賢治（国立民族学博物館助教） パレスチナ地名刺繍タペストリーについて（仮題） 5月11日（日） 菅瀬晶子（国立民族学博物館准教授） アラビア文字、広まる。変わる。消える。 5月18日（日） 吉岡乾（国立民族学博物館准教授）
定 員	なし（ご自由に参加いただけます。）
参加方法	要展示観覧券（イベント参加費は不要）

■みんなく映画会

「人もモノもうつろいゆく時代に、点と線は変わらぬ価値を描く」

・上映作品「フォトコピー」(エジプト、2017年)

会 場	国立民族学博物館 みんなくインテリジェントホール（講堂）
日 時	6月8日（日）13：30～16：15（開場 13：00）
司会・解説	相島葉月（国立民族学博物館准教授）
定 員	350名
参加方法	要展示観覧券（イベント参加費は不要）
内 容	長年、大手出版社で植字工として働いたマフムードは、コピー屋を営みながら静かに暮らしていた。ある日、大学生に代筆を依頼されたレポートより、恐竜が自然環境の変化に適応できずに絶滅したことを知り衝撃を受ける。恐竜が絶滅した背景についてもっと知りたいという思いから、新しいテクノロジーと向き合う決意をし、これまでとは違った生き方を模索するようになる。



フォトコピーのポスター（英語版）

■ワークショップ

「アラビア書道ことはじめ—やってみよう筆づくり」

会 場	国立民族学博物館 第3セミナー室、企画展示場
日 時	3月29日(土) 午前の部 10:30～12:45 (受付開始 10:00) 午後の部 14:15～16:30 (受付開始 13:45)
講 師	山岡幸一 (日本アラビア書道協会事務局長)、 相島葉月 (国立民族学博物館准教授)
定 員	各回 10 名
参加方法	事前申込制 (抽選制)。申込フォームおよび電話にて。1 回につき 1 名の応募が可能。
内 容	アラビア書道の書家は、自身の作品制作に使用する筆を葦や竹を削って作ります。日本アラビア書道協会の山岡幸一氏を講師にお迎えして、アラビア書道用の筆の作り方を習います。道具についての理解を深め、アラビア書道の基礎を学ぶことを目指します。最後に、自作の筆を使用して、アラビア語の数字や文字を書いてみます。



アラビア書道の道具 (エジプト、2023 年)

「アラビア書道ことはじめ—書いてみよう点と線」

会 場	国立民族学博物館 第3セミナー室、企画展示場
日 時	5月18日(日) 午前の部 10:30～12:45 (受付開始 10:00) 午後の部 14:15～16:30 (受付開始 13:45)
講 師	山岡幸一 (日本アラビア書道協会事務局長)、 重信紀子 (日本アラビア書道協会講師)、 相島葉月 (国立民族学博物館准教授)
定 員	各回 20 名
参加方法	事前申込制 (抽選制)。申込フォームおよび電話にて。1 回につき 1 名の応募が可能。
内 容	日本アラビア書道協会の山岡氏と重信氏を講師にお迎えして、アラビア書道の基礎を学びます。まずは竹筆の持ち方を確認し、点と線の書いてみた後、アラビア語の数字に挑戦します。最後に山岡氏が用意した参加者の下の名前をアラビア書道で書いた手本を参考に、アラビア文字の練習を行います。参加者は手本を持ち帰ることができます。



山岡幸一作「ハツキ・アイシマ」2023 年、ナスヒー書体

■友の会講演会

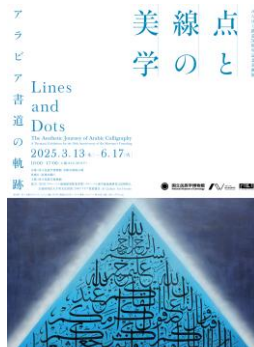
「イザベラ・ウフマンとレターリアリティの世界」

会 場	国立民族学博物館 第5セミナー室
日 時	5月3日（土・祝）13：30～15：00（開場13：00）
講 師	永井正勝（筑波大学教授） 相島葉月（国立民族学博物館准教授）
定 員	70名
参加方法	友の会会員、キャンパスメンバーズ：無料、 一般：500円、事前申込制（先着順） ※友の会会員に限り、オンライン配信あり
内 容	イザベラ・ウフマンは、絵もテキストとしてとらえた古代エジプトの人々の思想を継承する現代アートの作家です。ワルシャワ大学で美術を学んだ後、古代エジプトの遺跡修復に携わる中で、アラビア文字とヒエログリフを織り交ぜた作品を着想しました。本講演会では、絵画でもありテキストとしても読めるウフマン作品の世界観を解き明かします。



イザベラ・ウフマン作
「太陽からの一筋の光」2022年

企画展「点と線の美学——アラビア書道の軌跡」 広報用画像リスト



【1】企画展チラシ



【2】ハサン・マスウディー作、「人」、1996年



【3】イザベラ・ウフマン作「メタモルフォシス」2021年



【4】クーフィー書体で書かれた神の美称



【5】「雄鶏印のロウソク」のラベル、エジプト、1960年代（推定）



【6】リビアの新聞「アル＝ファジュール・アル＝ジャディード紙」（1974年7月8日付）。エジプト人書家ムハンマド・ハマーが赤色の1面記事タイトルを担当した。

これらの広報画像はデータにて提供可能です。

ご入り用の画像があれば、総務課広報係まで次頁申込用紙にてお申し込みください。

資料名につきましては、展示場での表記と異なる場合がございます。

